

## 「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」(第8回選定)

### 有識者懇談会概要

日 時：令和3年11月19日(金) 14:00~14:30

場 所：総理大臣官邸2階大ホール

出席者：

(政府) 松野内閣官房長官、金子農林水産大臣、野田内閣府特命担当大臣、  
磯崎内閣官房副長官、栗生内閣官房副長官、  
牧元農林水産省農村振興局長

(委員) 林座長、今村委員、田中委員、永島委員、三國委員、向笠委員、横石委員

概 要：

(林座長)

- ・ 本日は、第8回選定となる「ディスカバー農山漁村の宝」の選定地区及び選定者の決定並びにグランプリ、優秀賞及び特別賞の選定について御議論をいただくので宜しくお願いしたい。

#### 【事務局説明及び意見交換】

(牧元農村振興局長から、資料に基づき、第8回選定の選定地区及び選定者並びにグランプリ、優秀賞及び特別賞の候補について説明。その後、委員からいただいた主な意見は以下のとおり。)

- ・ 年々ビジネス目線が高くなってきており、ブランドづくりや若者・学生の活躍が目立っている。また、官庁、企業、学校、福祉、サッカーチームに至るまで、様々な者との連携が目立っており、この賞が良い形になってきている。  
特別賞については、「牛の尿は農業を救う」というコピーが出色だったので選定した。
- ・ コロナの中でできる工夫が限られる中、オンラインでの体験、ECによる販売など工夫して取り組んでいるほか、多様な世代、職業が活躍している。また、DXも活用し人材登用、スキル・知見の向上が可能となっている。  
特別賞として選定した愛媛県立三崎高校の取組は、高校なのに県外からの入学志願者が増えているというのは大きな成果。10代のうちから地域の交流を作り出していく力は日本を変えていくと思う。  
受賞者がSNSで発信するに当たって、ディスカバーのマーク、テンプレート、SNSのフレームワークを準備するとよいのではないか。
- ・ 15年以上マルシェをやっているが、この1~2年、コロナの中で、自分の生活を守るため農業に関わりたいという人が増えてきている。最近では、ある大企業の労働組合が農業に関わりたいとって畑を始めた例がある。このような良い流れ

を形にしていくことが重要。

特別賞として敷信村農吉を選定したが、子育ての上で、農地は教育の場として子どもだけでなく大人たちも学ぶことができるという点で重要。

- ・ 跡継ぎがない農家が多く、大きな農地を若い人に貸している例もある。そのような中、特別賞として選定した取組に「茶畑オーナー制度」があったが、このような方向性は良いと思う。

- ・ 近年はシェフやパティシエが主役の取組も選定されてり、これらの事例が発表されると大きな話題になると思う。

特別賞として選定した赤毛米の復活栽培の取組や、沖縄の山原女性農業者の会といった、地道に日本の食文化継承のために長年取り組んできた団体が受賞することは非常に地域の奮起、エールを送ることになるので、地道な取組にも光を当てていきたい。

若者の活躍も見られるが、この道何十年のシニアの活動も目立ったので、「シニア賞」といった賞もあってもよいのではないかと思う。

- ・ コロナ禍の中で、多くの応募があったのは農政局の熱心な取組によるもので感謝したい。

高校生など若者の活躍の舞台ができてきたことは新たな時代の変化でもあり、そこから共創の取組が全国各地で見られるようになった。

特別賞として奈良県十津川村の林業の取組を推薦したが、環境問題は非常に重要であり、山をどう活かしていくかについては、国を挙げて取り組んでいかなければならない。特に、田舎で一番弱いソフト面を支援する必要がある。

スギ 100%で作った糸で T シャツを作ることができるようになっており、このような新たな商品作りができれば変わっていくのではないか。

- ・ コロナの中で 651 件も応募があった。しかも 8 回目だが内容がどんどん洗練されてきている。

特別賞はブランディングの取組を選定した。内容も良いがブランド化という取組も素晴らしい。

(野田内閣府特命担当大臣)

- ・ 今回の取組は、見ているだけで食べたくなる、着たくなるといったポテンシャルを感じさせるものだった。

- ・ 先日、宮城県に出張したが、生牡蠣、笹かまぼこ、お米、お酒など、まさに盛りだくさんの宝の山だと感じた。地方創生というが、既に皆さんが努力して宝を作り上げている。厳しい厳しいと悲観的にならず、こういう人たちとしっかりつながっていくことが私の仕事だと思った。是非引き続き地方創生を引っ張ってほしい。

(松野内閣官房長官)

- ・ それぞれのチームが地域特性を活かしたものを作るだけでなく、社会的ニーズがどこにあるのかというブランディング、マーケティングの意識から活動を展開しているのは素晴らしいものであり、今後更に発展していくことを期待している。

(林座長)

- ・ 意見交換を終了する。
- ・ 第8回選定の選定地区及び選定者並びに第8回選定のグランプリ、優秀賞及び特別賞について案のとおり了承することによろしいか。

(異議なしの声)

(林座長)

- ・ それでは決定とさせていただきます。
- ・ 閉会に際して、野田内閣府特命担当大臣、金子農林水産大臣、松野官房長官から御挨拶賜りたい。

【閉会挨拶】

(野田内閣府特命担当大臣)

- ・ 今年度も地域の実情を踏まえた、特色ある取組が選定され、地方創生に直結するものが多かったと感じる。政府としては、活力ある地方を創り上げるために、豊かな自然、観光資源、文化といった地域が誇る資源を最大限に活かし、地方創生政策を推進している。
- ・ 地方創生を体現している、「ディスカバー農山漁村の宝」の選定事例に続こうとする新たな取組が全国各地で広がっていくことを期待している。

(金子農林水産大臣)

- ・ 第8回選定地区を見ると、農業だけでなく林業や水産業における取組もあり、日本の農山漁村には素晴らしい宝があることを全国にお示しすることができた。
- ・ これらの宝を国民にもっと広く知っていただくことが、選定された地域の発展はもとより、新たな宝の発掘につながることから、農林水産省としても引き続き委員の御意見を踏まえ、全国にしっかり情報発信していきたい。

(松野内閣官房長官)

- ・ 本年は4校選定された高校の取組をはじめ、小学校や大学の取組など、若者の活躍が目立っていると感じたところ。
- ・ グランプリに決定された「一般社団法人三重県障がい者就農促進協議会」では、県の教育委員会や特別支援学校と連携した取組を進めている。また、優秀賞に選定された団体では、地域おこし協力隊などの移住者が活躍している事例も見られる。

- ・ このような多様な人材の参画による、地方活性化につながる優良事例が選ばれたことは政府としても大変心強い。
- ・ 今回の 38 件を加えると、第 1 回から数えて 249 件が選定されたことになる。各取組での工夫や情熱を広く発信していきたいので、引き続き委員の御指導・御協力をお願いします。

【閉会】

(以上)